

残暑の砌 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

昭和十六年八月の開戦前夜、我が国の在米資産全面凍結に続いて石油全面禁輸された海軍軍令部 永野修身総長は こと既に此所に至る。戦わざれば亡国と政府は判断されたが、戦うもまた亡国に繋がるやも知れぬ。しかし、戦わずして国滅びた場合は、魂まで失った亡国である。しかして最後の一兵まで戦う事によってのみ、死中に活を見出し得るであろう。戦ってよしんば勝たずとも、護国に徹した日本精神さえ遺れば、我等の子孫は再三再起するであろう。そして一旦戦争と決定せられた場合は、我等軍人はただ大命一下、戦いに赴くのみである。」と云われたそうです。

当時の新聞を読み解くとそれがその時代の空気と率直な感情の様で、今日の我々が現在の物差しを当てて、あれこれ云うのは如何なものかと感じます。六十八年後の子孫である 現代日本人」の資質を問われた、暑い夏でした。八月十一日投票の与那国町長選では、現職で自衛隊配備推進派の外間氏が四十七票差で三選を果たし、与那国町民の良識を世に示したようです。

また同十五日には石垣島にて沖繩戦陸軍特攻第一号 伊舎堂用久中佐」と隊員三十一名全員の名前を刻印した顕彰碑が建立され除幕式がありました。その事を現在購読中の 「八重山新報」で知り、私も協賛をさせて頂きました。だが、同紙に 特攻に目をそむけてきた沖繩で、顕彰碑が建立されることは意義がある」とのコメントを見つけ、大きく胸を撫で下ろしたところでした。

オスプレイ配備反対」と声高に叫び、それを煽るかのような記事のみ掲載する沖繩二大紙もあれば、同じ日本人として祖国防衛に散った郷土の勇士達を讃えようとする、僅か六千部の地方紙も健在でその存在感に光っています。

見開き六ページの同紙ですが、中国海警艦船による尖閣海域への領海侵犯記事が連日一面に掲載され、国境の島々の緊迫感が紙面の端々に窺えます。遠く離れた東シナ海上での海上保安庁と中国海警の小競り合い等、宮崎迄は伝わりませんが、百数十kmの指呼の間の与那国では切実な問題でしょう。

我々も国益等にもっと大きな関心を寄せねば、領土や資源は守られません。

さて同二十一日、新田原基地での 全国防衛協会連合会青年部会第十三回青年研修会宮崎大会及九州・沖繩地区防衛協会青年部会連絡協議会第三十一回宮崎大会」と非常に長い名称の 第二回実行委員会」に参加して来ました。

詳細は同封の開催要項に譲りますが、これは八年前の平成十七年に、私が実行委員長として開催された 第二十三回宮崎大会」と同じものです。

その折も支部会員の皆様には、登録料や協賛広告等で多大のご協力を頂きましたが、今回もまた同様にお力添えをお願いせねばなりません。

今回の目玉は日向灘沖に最新鋭ヘリ空母「いせ」を回航し、新田原基地よりCH47に搭乗して着艦後、体験航海をして頂く計画に付き是非ご参加下さい。全国から大凡七百名の同志達が宮崎に参集致しますので、大いに交流して青年部会の熱くて厚い 祖国愛」を全国に発信したい存じます。

尚、先月十五日の戦没者追悼式ご参列は、暑い中大変ご苦勞様でした。結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

平成 二十五年 九月 一日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部 支部長 小倉 和彦

